藤女子大学
藤女子短期大学

No. 9

図書館だより

'79.5

『為家集』の写本

図書館長　家　郷　隆　文（国文学）

いま私が書架に所蔵する『為家集』の写本は，『私家集伝本書目』（和歌史研究会編，昭和40年，明治書院刊）に登録されている三本である。学部学生，大学院生時代に購入したものである。昭和27年ころから30年にかけてのことで，それ以後の古書市場には，『為家集』以外の写本も潤沢には出廻らなくなり，それにつれて値段も高騰して，個人ではなかなか入手し難くなった。しかし元禄７年刊の板本『為家集』は，古書目録に載るごとに注文して，買占めの気分も少しばかり味わうことができた。いまでは，その板本すら市場に出廻らなくなってしまった。むかしの学生時代はよかった，などといえば，老いのくり言めくが，本当によかった。学生のポケット・マネーで古い写本が買えたのである。もっとも私が探し求めていたのが，人の見向きもしない特殊な分野であったからかもしれない。その入手の方法は，すべて通信販売であった。研究室に送られてくる古書目録，それも当時はガリ版刷り，それをみては注文した。そのころ入手した『為家集』は，「桃園文庫」（池田亀鑑博士蔵）旧蔵・「阿波国文庫」（蜂須賀家蔵）旧蔵の流布本系『大納言為家集』二本と，外題に『中院集』とある一本である。この『中院集』は，五つ目袋綴の一冊本，表紙は渋引き，本文は楮斐交漉の薄様，墨付は64枚，書写は二筆，江戸初期。伊賀上野の沖森書店から購入した。これを入手して後，ある日研究室の日本文学全史『鎌倉文学史』（吉沢吉則，旧版）のあるページの写真に目をとめた。その説明に「異本為家卿集（図書寮蔵）」とあって，第１紙の表のコピーが，入手した『中院集』とまったく同じであることを発見して驚ろいた。異本系統の一本が学生の手に入ったのである。図書寮本は上下二冊，表題が別々で，もとは一本であったにちがいないと推定されていた。その推定が，この一冊本『中院集』の出現によって実証されたわけである。その後，本文校合のため図書寮本を披見したときの，こめられてある香の，あの薫りはいまだに忘れがたい。昭和28年の梅雨どきのことであった。間もなくこの図書寮本は，翻刻されて（『桂宮本叢書』第6巻，昭和31年，養徳社刊），それまで翻刻本のなかった『為家集』の一本がはじめて活字化されることとなった。架蔵『中院集』は，『私家集大成』第４巻，中世Ⅱ（昭和50年，明治書院刊）に，「中院集（家郷隆文蔵）」として収められた。そこで困ったことには，もうこの写本は古書市場には出せなくなってしまったことである。換金（？）をあきらめて，近く国立国文学資料館に永久保存を依頼することにしているが，その別れはつらい気がしないでもない。

図書館をあなたのものに

―雑　誌　A から Z まで―

雑誌時代

図書館の雑誌利用を見ていますと，3年間に次のような数字の動きがあります。

	昭50年	昭53年
貸　出	1,185冊	1,894冊
閲　覧	5,138冊	8,805冊

こうした数字は，色々な読み方ができますが，年毎の雑誌利用の増加は否定できません。また数字に現れない雑誌利用の実情について，奉仕部の係員には強い実感がある様子です。

市内の書店でも，雑誌売場が年毎に拡張され，店内は以前には想像もできないカラフルな商品構成になりました。書店や図書館で，よく用いる便覧等によると，国内発行の各種雑誌は約2万点，洩れている小雑誌を加え，総発行部数を考えると，これはもう大変な数字です。その上に「ムック」という図書とも雑誌ともみられる新しい形の出版物も定着しましたから，雑誌時代という現象が，私たちの周囲に色色な形で見られるようになりました。

雑誌の利用について

そこでこの号では，雑誌そのものが，また雑誌の論文・創作・記事などが，一体どう利用されているか，どんな利用の方法があるか考えながら，雑誌を一緒に読めてみませんか。

新刊の場合――新しい雑誌の最大の特色は当然ながら，「早い・新しい」ということでしょう。どの本にも，他の雑誌にも出ていない独自の思想，論評，創作等に触れることができます。対象となる雑誌によっては，その専門性も高く評価されます。

片々たる一記事が大きな影響を与えることもあります（**文芸春秋**　田中角栄研究―その人脈と金脈―）新刊雑誌の掲載論文の中には，学説として固定せず，未知の可能性を含むものがあります。さらにユージン・スミスの写真は詩情（スペインの集落）でもあり告発（ミナマタ）でもあります。新人の創作なども含め，精力的に雑誌を見ていると量りしれないプラスがありましょう。

以前は研究論文の中に雑誌論文などを引用すると，「新しがりや」「評価の定まらぬ論文を簡単に取入れる軽薄の徒」的にみなされて，中には突返されることもあったそうです。時の流れでしょうか，近頃は逆に若干の雑誌論文を加えなければ，分野によっては「新しい研究や学界の動向，最新のデータ」について不勉強であると見られることなどもあるようです。

この雑誌重視の動きは，科学・技術分野（医学・薬学・化学が最尖端）に著しく，順次，社会・人文関係へと及んでいます。専門雑誌は論文の他に論文抄録を，さらには論文のほんの要点を列記したレターズという形のものも加えて，少しでも早くという利用者の期待にこたえているものがあります。

本学図書館のオリエンテーションに，新入学生と一緒に入館して，区切りの適当なところで「だから君たちどんなに忙しくとも，毎月雑誌の目次だけは目を通しておけよ」と声をかける先生が居られるのも，学習の中で雑誌の占める位置を示す身近かな一例でありましょう。

バックナンバーの場合――これには最新情報という意味はありませんが，場合によって稀少価値が出てきます。古書市のボロ雑誌や復刻版の企画など百万単位の値がつくものも，原資料としての雑誌の貴重性を語るものです。

古い雑誌には，論文や創作が原文で掲載されています。**改造**の「暗夜行路」のように，後日研究上参考になるものが多く，それぞれの分野で意義があります。**文芸朝日**連載の阿川弘之「史伝山本五十六」は，新潮社から出版される時「史伝」が消え文章も変り，その後さらに大幅に筆を加え新版が発行されています。何気なく雑誌に出ている論文や創作には，研究する立場では例えようもない価値があげられます。

また**群像**（昭30・11）に「黄色い人」遠藤周作がありますが，**知性**（昭30・10）にも「黒い十字架」遠藤周作があり，「黒い十字架」は「黄色い人」の一部分なのです。「黄色い人」は，芥川賞受賞作の「白い人」と共に，第1創作集として同年出版されました。一方「黒い十字架」は年譜や書誌からこぼれている場合もあり，あまり知名度はありません。この同じ（?）作品はどうしてこうなったかという意味でも，文章の対比の面からでも，初期の作品の過程とし，大変興味があります。

再びバックナンバーの場合――本釣のように，一冊の雑誌を探し，その中のひとつの記事にすべてを集中するという利用の他に，ある雑誌のバックナンバーを全部，或いは何年分かまとめて調べる縦利用があります。これにより雑誌の主張・特性を直接読み，雑誌の背後の思想・文化を理解することができます。

日本及日本人，**学の燈**（後に**学鐙**），**英語青年**，**婦人之友**，**改造**など主張のはっきりした雑誌が多くありますが，これら諸誌の記事の累積には，相応な誌歴の重みが感じられます。

また内田百間「百鬼園随筆」**小説新潮**，滝沢敬一「フランス通信」**学士会月報**のように，連載の記事が非常に長きにわたり，それが雑誌の代名詞になる場合もあります。

ある雑誌の何月号かを中心に，一般的にまたは関連分野から，その前後の雑誌をひろく読みあさることがあります。この横利用では，数誌，数十誌の併読によって，主張の把握，時代相の理解，関連分野の動向など読み取りが容易であります。

例えば「三島由紀夫自裁」などを例にとりますと**新潮**の臨時増刊をはじめ，**平凡パンチ**までが特集号を組んで，執筆者もさりながら，視野もまちまちで，今でも数十誌をひもでしばって何十万円と古書店に並んでいるのは，横利用の特色をよく理解した要求の根強さを示す現れでありましょう。「大正デモクラシー」「戦時下文芸活動」「戦後教育」「婦人運動」等々の資料は，現在絶えず動きのある分野です。

バロメーターとして，よく用いられるものに戦前の**中央公論**，戦後の**世界**がありますが，むしろ**朝日評論**，**自然**，**思想の科学**などが，戦後を端的に表現するという声もあります。

戦後雑誌の流れ

雑誌を利用していて，強く感じますのは，戦前と戦後との非常に大きな相違で，これは頁を開いただけですぐ解ります。明治・大正・昭和と続いた雑誌の流れが，戦後一度に根本的に変ってしまった。そんな印象があります。

ひとつは，雑誌の大型化で，婦人雑誌をはじめとして，現在多くの雑誌が大きなサイズですが，以前は大体その半分ほどのものが普通でした。占領軍と一緒に来たけばけばしいアメリカ誌の影響もありました。

第2に，内容の視覚化という訴えで，総合誌とか思想誌とか呼ばれるものは，前から後まで活字ばかり，小さなカットひとつもなかったものです。戦後は，殆んどの雑誌にアートやグラビヤが定着しています。挿画，組写真，切絵，漫画がそれぞれ市民権を得ています。**アンアン**だとか**ノンノン**だとか，相当の発行数を持っているのは，眺める誌面構成によるものといわれますが，これは現在の雑誌一般に見られる風潮でしょう。

3番目には，戦後誌は文章も内容も平易になり，一部の専門誌が著しく程度が高くなったことと相反する事実であります。

この現象は，昭和20年代の終りから，30年代の初めにかけて，大体一般的になりました。**日本**，**若い女性**，**知性**などの各誌が，その接点にありました。雑誌の大きな変化は，出版検閲の廃止，占領，教育の変化，国語表記の改革など理由は多くありますが，**週刊東京**，**週刊新潮**が口火となって，週刊誌ブームを呼ぶ世相の影響が最大であります。（**平凡**，**NHK**高橋アナ，美空ひばり，クイズ大流行，長島そしてブルーバードという時代でした。）そんな中で，**心**，**新潮**，**みづゑ**，**室内**，**労働問題**，**思想**，**家政学雑誌**など，特色あふれ現在まで続いている雑誌が多いことも事実です。

全体的に低俗化され，読み（眺め）易い誌面と多数の読者。そして部分的には，多様化された少数専門誌の存在が，戦後雑誌の総括です。「ブタ的編集人たちが作る金色のブタ的婦人雑誌」**本の雑誌**より―戦後雑誌の自己評価とも称すべきでしょうか？

敗戦後，用紙統制（64頁），米軍のきびしい検閲，印刷・製本施設の戦災，それらの悪条件の中で，良い雑誌を育てようとした関係者の努力を忘れることはできません。**朝日評論**，**日本評論**，**望楼**，**あるびよん**，**芸林間歩**，**平和**，**映画春秋**，**ヨーロッパ**，**アメリカ文学**，**書評**，**PIC**，**苦楽**，**学生**など，今では姿を消した多くの雑誌の中に，生命を保っている記事を振返ることが可能であります。**ペンギン**「クリスマスの記」，**PIC**「出版関係名著解題」，**アメリカ文学**「女流特集」，**ヨーロッパ**「反堕落文学論」など，小篇ながらそれぞれに忘れ難いものがあります。

栗田コレクション（北海道立図書館所蔵）

前述の戦後雑誌は，殊に敗戦直後発行のものは，製本も粗雑で部数も少くて，今では殆んど見られません。文学事典や解題書誌にも，不正確な部分が多いのです。

ところが，先年栗田書店から道立図書館に寄贈された栗田文庫第2陣は，数千タイトル30万冊と称される戦後誌の集大成であります。日本の戦後誌の蒐集としては，超一流の世界的なもので，道立図書館に寄贈の動きのあった際には，海外の大学や財団より，高額の引合いがありました。私たちは，身近かなところに，ひっそりと所蔵され，道民に利用の道が開かれている文化財の集積に無関心では過ごされません。社会，文学その他の研究に，どれ程大きな意義を持つか，量り知れないものがありましょう。道立図書館の書庫，**新生**，**人間**から，**日本小説**，**りべらる**まで，無数の誌名を数えてみますと，ずっしりと戦後文化の重みがあります。

さかのぼって，先に贈られた栗田文庫の図書も加えますと，戦後出版物の蒐集として，1館のみでは異例のもので，国立国会図書館に所蔵のないものも，多く数えられます。

所蔵雑誌の紹介

図書館には，約2千誌3万冊の雑誌等が所蔵され，さらに相当数の未整理分があり，新しい購入計画もあります。しかし，相当の量を紀要などが占めますから，文科系大学としては，決して多いものではありません。その利用については，本紙4号に特集がありますから，出納台の綴込をよく読んでください。所蔵誌で近年徐々に増加しているのが，例えば近代文学館などを中心とする復刻版文芸誌．プロレタリヤ諸資料などですが，それらも含め，無作為に何点をか素描してみます。

T. L. S. (The Times Literary Supplement)

1902年の創刊以後の全号所蔵。英文書評紙の重鎮である。せまい意味の文学に限定されず，充分に選択された対象図書は，それ自体英語圏出版界の展望としてまことにふさわしい。伝統である無署名の書評は，一過的な案内にとどまらず，文明批評と称して可であろう。作家論・作品論はもちろん，児童文学，詩その他の特集は，質量とも年に何度かの楽しみでもある。旅行記などの多いこと，重厚な印象と矛盾しない，奇抜で新しいタイプの編集が時折見られることなどもイギリスらしい。

新日本文学

創刊準備号以後を所蔵しているが，この準備号は，今日殆んど見ることができない。B6判24頁ザラ紙仮綴のもので，巻頭には例の有名な「歌声よ，おこれ」宮本百合子がある。昭和21年1月50銭，10月6円，定価を見ると戦後インフレが身近かに分る。現代文学に多大の影響を与えた本誌は「播州平野」の連載でスタートをした。

四　季

四季社発行の戦前の**四季**は，運動なき，イズムなき詩誌として，また昭和詩壇の一角をなすまで多くの詩人を育てた園として……あまりにも有名である。昭和42年丸山薫らが誌名を惜しみ，潮流社によって復刊した戦後（4次）**四季**は17冊で幕を閉じたが，400頁の終刊号が「丸山薫追悼号」とは，めぐりあわせというものか。当時空前と呼ばれた追悼号執筆者中，「丸山薫さんのこと」村野四郎は絶筆である。「覚え書」八木憲爾は，丸山薫年譜としてユニークな一流のもので，筆者の心が伝わってくる。戦後の**四季**は，執筆者もひろく，落着いた成長があった。連載の「伊藤整年譜」は知られていない。神保光太郎は後記で「四季三度び出でよ」と叫んでいる。

セルパン

詩人春山行夫編集の文化誌。その頃行夫は，「詩と詩論」運動をすすめており，意欲は**セルパン**にもみなぎって読者をひきつけた。本誌は詩＝文学との定型を避け，映画・音楽・美術など広い範囲の素材を縦横に消化して，多くの作家，作品，芸術運動を積極的に紹介した。編集感覚の新しさは，半世紀を経た今日でも充分通用するであろう。頁を繰りながら，その構成に驚くことがある。スタインベック，フォークナー，ヘミングウェイなどが紹介され，コクトオも顔を出している。戦時下の用紙統制で**新文化**となり，やがて多彩な生涯を閉じる。行夫は後に**雄鶏通信**により，続いて個人誌**ペンギン**を発行するが，これは**セルパン**とは別に考えるべきであろう。

改　造

大正の比較的自由な空気の中で創刊。話題論文多数を発表して，よく役割を果したが，戦時中の強い弾圧を経て昭和30年廃刊。代表的な思想誌として，**中央公論**としばしば比較される。解題書では，思想誌の面が強調されるが，実際には，文芸誌的な面での重みにも相当なものがあった。龍之介，直哉，実篤，春夫，弾，百合子がよく登場し，モダン派の新人も本誌により紹介された。デコブラ，モーリヤック，エレンブルグなどの若き日の作品も多い。芥川賞を戦場で伝達された歩兵伍長火野葦平も，作品が多く掲載された1人である。社会思想，婦人問題，無産運動などの論文が多いことは，言うまでもない。肇の「第二貧乏物語」も話題となり，随分よく読まれた。創刊号の文芸欄に馬琴研究2篇が並ぶのも，意外でもあり，興味もあった。社説が4篇，中に「労働省を新設せよ」が見られた。最終号には，ルポルタージュ4篇「愛知用水」「ヒロポン」は，世相を反映し，時の移りを思わせる。

Poetry　a magazine of verse

1912年ハリエット・マンローによって創刊された。アメリカのいわゆる「詩の復興時代」の代表的旗手と称される。

We believe that there is public for poetry, that it will grow, and that as it becomes more numerous and more appreciative the work produced in this art will grow in power, in beauty, in significance.

創刊号の The motive of the Magazine の一節である。エズラ・パウンド等により，イメージの重視と日常語による表現などが唱えられ，新しい詩運動の流れとなった。有名な「シカゴ詩集」カール・サンドバーグは本誌に発表され，後にポエトリー賞を受賞した。ハリエット・マンローは，**Poetry** によった詩人として，フロスト，リンゼイ，サンドバーグ，マスターズ，ローウェル他両手に余る著名詩人の名をあげている。本誌の刺激で多数の詩誌が創刊された。まことに **Poetry** は小雑誌ながら，今世紀の文学に影響を与えた世界的な詩誌である。館では創刊号以後全巻を所蔵している。

世　紀

教会関係者の中だけで読まれていた小雑誌**カトリック**が，この**世紀**の水源であった。その一貫した方針ときびしく選択された執筆者ゆえ，やがて**カトリック**は，硬派の思想誌として注目される。昭和初期である。ベギー，デュボス，バザン，モーリヤック。国内では岩下壮一，木村太郎，田口芳五郎などの執筆が続く頃誌名を**カトリック研究**とし，岩波書店発売となった。ジーメス，マリタン，マーゲル，シュマウスと第一線の思想家の論文は，なお続いた。パスカル特集号など，古書市場で1万円に近い。戦後は季刊の**カトリック思想**となった。バロック～野村良雄，ゴティーク～柳宗玄，ダンテ～大沢章など芸術的小品と吉満義彦，田中耕太郎らの論文とに不思議な調和があった。この時代の「戦犯裁判と報復戦争の観念」エリッヒ・フーラーは，学界内外で大変な話題となった。ロマノ・グァルディニの巻頭論文で季刊最終号を飾り，昭24年再び月刊誌となり，**世紀**と改称した。**世紀**は，当初**エスプリ**，**エテュード**，**ホッホランド**，**ソウト**，**コモンウエル**，**マンス**など欧米各誌と特約し，現在では考えられないほど，視野の広く格調高い総合誌であった。ハイデッガーやウエルフェルの名が見られる。**世紀**は，暫くのち編集方針を変え，より身近かで親しみ易い主題を取扱い，それなりに定着している。社会性に富んだ，説得力のある雑誌であって，本学でも指定図書に指定され，学生の利用も多い。しかし，**世紀**と改称される際の予定誌名は**世界展望**であったのだが，その視点と心とは今も健在なのであろうか？　それはそれとして昭和10年代，**カトリック**から**カトリック研究**の時代，不器用なほど強く硬い論文を集中していた本誌は，今は失われた何かの頂点であったように思われてならぬ。各時期を通じての所蔵は，全国で

もまれであり，館の所蔵も不完全である。

無産者新聞

50年前に創刊された本紙と，今それを読む我々とには，社会的な断層がある。にもかかわらず，本紙は強く訴え，はげしく迫ってくる。約300回の発行のうち，半数近い発禁・差押えという事実の力とでもいうのであろうか。稚拙なしかし懸命な編集の中に，「議会解散請願」「共同印刷争議」の紙面の上に，人影が見える。それは耐え，戦い，叫ぶ群像である。政治運動，反戦，農民運動，この紙面にあるのは，ひとつの昭和，忘れられようとしている重い昭和である。創作欄には鹿地亘などの名が見える。本紙は，4年間で倒れるが，我々はやがて，**第二無産者新聞**，さらに**赤旗**に，帰ってきた男たち女たちを見る。思想弾圧と出版検閲は尚も続くのである。近代・現代の歴史，文学，思想その他関連分野の1等資料といえよう。

英語青年

漢学・英学などが特別な響きをもっていた頃からの雑誌である。誌名を**青年**と呼んでいた初期を通算すると100年をこえる。敗戦後，裁断も綴じもない印刷して折ったままの本誌を買うため，軍服の学生が書店の前に早朝から長い列を作って開店を待ったものである。英語青年社から発行され，**英語青年**と改題，後に**英語研究**と合併，研究社に移ってから昭和30年代半ばまでの約40年間が，最充実期とみられる。土居光知，市河三喜，西脇順三郎，斎藤勇，大塚高信，中野好夫，福原麟太郎など新進気鋭の学徒の論文は定評があった。イエスペルセンやメンケンが是非されていた頃である。他にユニークな随筆があり，巻末の英語英文学界の動向・消息は，官報的な要素が強かった。質疑応答や英訳練習など，いかに多くの学生の励みであったことか。特集や増刊も振返ることができる。昭和44年ホイットマン150年臨時増刊は，「日本におけるホイットマン」として，寿岳文章ほか10篇。「草の葉」名詩評釈では，Beat！ Beat！ Drums！など刈田元司，大和資雄らが苦心して言葉を選んでいる。昭和41年の上田敏50周忌記念号，「矢野峰人氏を囲んで」の座談会は，**英語青年**のみならず上田敏をよく語るもののひとつであろう。この号には，目立たぬ短文ながら，森亮の翻訳の芸—上田敏本歌取り—があり微笑を誘う。本年発行される**英語青年総索引**により，新しい目で掘起される論文も多いと思う。新着の6月号にも，創刊時と同じ The Rising Generation の文字があり，総号1564号と記されている。しぶい表紙である。しかし，タイトルと目次と並んだ何気ない昔の表紙が，しみじみとなつかしい。

おわりに

私たちの図書館は，学生も書庫に入れますから，ゆっくりと時間をかけて目的のものを探すことです。便利な索引や文献目録も，種類が多くなりましたけれど，何頁以下の記事は対象としないという例もあります。**小説新潮**に吉屋信子が書いた女流歌人伝などは，目録や索引では見落すようなものです。やはり，手にとって頁を繰るのは，大切なことですね。

道内の大学図書館組織では，数年前から各館で新しく雑誌を継続購入したり，バックナンバーを一括購入すると，必ず加盟各館に連絡をすることになっています。つまり，他館の最新情報を基礎とした奉仕業務を行える態勢にあります。

雑誌は利用も増え，図書館でも重視をしています。雑誌の集積は，地味でありますが，私たちにとってかけがえのない財産であります。

付表・所蔵雑誌略表

館所蔵雑誌のごく一部を，以下略表としてみました。中には復刻版や複写製本で補っている雑誌もあります。紙面の都合で文芸誌などを全く適宜に選び出したものです。

女学雑誌	明18～36	薫春堂
国民之友	明20～31・全	民友社
帝国文学	明28～大9・欠あり	大日本図書
明星　1次	明33～41	東京新詩社
新思潮	明40～大6	瀧文閣
アララギ	明41・継続中	埴岡短歌会
三田文学	明43～大5	三田文学会
白樺	明42～大12	洛陽堂
婦女世界	大7～15	婦女世界社
スバル	明42～大2	昂発行所
新潮	明37・継続中	新潮社
文学界	明26～31	女学雑誌社
	※　※	
英語青年	明40・継続中	英語青年社
文明	大5～7	籾山書店
改造	大8～昭30	改造社
思想	大10・継続中	岩波書店
赤と黒	大12～13	赤と黒社
赤い鳥	大7～昭11	赤い鳥社
女性	大11～昭3	プラトン社
カトリック	大14～昭19・欠あり	公教青年会
文芸時代	大13～15	金星堂
文芸戦線	大13～昭3	文芸戦線社
驢馬	大15～昭3	驢馬発行所
ARS	大4	阿蘭陀書房
青空	大14～昭2	青空社
	※　※	
赤旗	昭3～10	日本共産党
文学	昭6・継続中	岩波書店
セルパン	昭6～18	第一書房
作品	昭6～10	作品社
ホトトギス	昭5・継続中・欠あり	ホトトギス発行所
文芸文化	昭13～19	日本文学の会
ナップ	昭5～6	戦旗社
	※　※	
友愛婦人	大5～6	友愛会本部
社会改良	大6～7	〃
労働	大9～昭9	〃
土地と自由	大11～昭3	土地と自由社
建設者	大11～12	建設者同盟
青年運動	大13～14	〃
無産階級	大14～15	〃
無産農民	大15	〃
前衛	大11～12	前衛社
赤旗	大12	赤旗社
階級戦	大12	〃
マルクス主義	大13～昭4	マルクス協会
無産者新聞	大14～昭3	無産者新聞社
大衆	大15～昭2	大衆社
労働及産業	大4～8	労働総同盟
労働婦人	昭2～6	〃
労農	昭2～7	労農社
	※　※	
原始林	昭21・継続中	原始林社
群像	昭21・継続中	講談社
近代文学	昭21～39	近代文学社
新日本文学	昭21～42	新日本文学会
文学界	昭26・継続中・欠あり	文芸春秋新社
ソフィア	昭27・継続中	上智大学
世界	昭21・継続中・欠あり	岩波書店
心	昭29・継続中	平凡社
芸術新潮	昭28・継続中	新潮社

The Authorized Version of the Bible

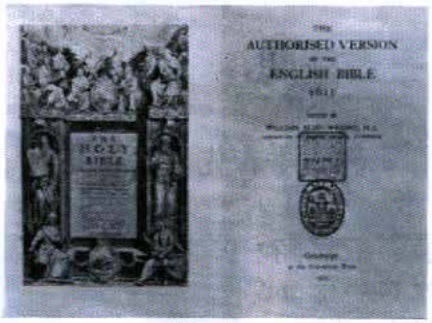
Cambridge Univ. Pr.　1909
請求記号　193　B41a　1－5

古くは9世紀から今日に至るまで聖書英訳の歴史は長い。その中で，以前ご紹介した「ジュネーブ聖書」のように幾つかの著名な聖書が世に出ているが，今回は数多い英訳聖書の中でもその美しさに並ぶものなく，英文学史にも必ず登場する，という聖書をご紹介しよう。

一般にAVと略称されたり，「欽定英訳聖書」と呼ばれるこの聖書，その名の示す通りその翻訳事業は17世紀初頭，英国王 James 1世の庇護のもとに始められた。1604年，Middlesex の Hampton Court Palace に召集された議会の席上，当時 Oxford の Corpus Christi College 学長であった Dr. John Reynolds が新たな聖書翻訳事業を提案した。それまでの英訳聖書を集大成した国教会公認の標準訳を待ち望む声もあったこの時期，提案はたちまち満場一致で可決された。ただちに James 1世の命により当代一流の学者・聖職者が47名選ばれ，以後3年半に渡り改訂・改訳作業が行なわれることとなった。当時，Shakespeare は40代，Othello (1604-5)，King Lear，Macbeth (1605-6)，The Tempest (1611-12) など代表作を次々と発表しその円熟期を迎え，後に「失楽園」を著わす Milton はまだ生まれたばかり，新大陸では植民が始まり，日本はと言えば徳川幕府の開かれた頃であった。

さてAV出版は，改訂，改訳完了の後，その印刷にさらに2年を費し，1611年にその第1版が世に出た。この初版，ルツ記3：15にある "And he went into the city" が一部で "she" となっていたため，"The He and She Bible" などというあだ名も持っている。

AV最大の特徴はその文体の美しさである。決して一語一語が華麗に飾られているという意味で美しいわけではない。むしろその表現は具象性に富み明確であり，語句は簡潔素朴で重々しい。47名の改訂者たちはAVに用いるべき語句の音楽的要素，音の響き，音と音とのつながりを重視し，充分に言葉を吟味した。彼等は簡素で力強いアングロ―サクソン系の短音節の語に，ラテン語訳やスイス，フランス，イタリア，ドイツなどヨーロッパ各地で出された翻訳聖書から落ち着きのある適切な語句を選んで加えた。このアングロ―サクソン系とヘブル系の言語の融合とも言うべきものがAVの美しさ，特にその音楽的リズムの美しさを生み出したと言われる。耳に快い響きを持つ言葉の流れは長く記憶にとどまり，心に深く浸透する。有名な「野の百合」の箇所を見てみよう。AVでは "Consider the lilies of the field, how they grow" となっている。他の訳 "Look how the lilies of the field grow" の平板な表現やぎこちないリズムに比べてAVはより音楽的なリズムを持ち，明確な表現の故にかえってその光景が鮮やかに目に浮んでくる。



教会で朗読され，家庭で読み続けられるものとしてAVの持つ，耳に響く美しさは貴重であった。17世紀以後AVは広く英国民に親しまれ，英語という言語に正しい標準を与え続けてきた。その後，より原典に忠実な英訳聖書が世に出たが，AVの持つ気品を凌ぐものはまだないと言われている。

さて，この「欽定英訳聖書」全5巻が当館の書庫一層の奥に滅多に開かれることもなく眠っている。皆さんの手でその眠りを醒してはいかがだろう。何気なく頁をめくっていくうちに，遠く300年もの昔，イギリスの家庭の一家団欒のひととき，眠たげな子供たちに母親が読んで聞かせた心地良い調べが聞こえてくるかも知れない。

書斎訪問

後藤平吉先生（法学）

3月末のまだ寒さの残るある日，旧館3階の研究室におじゃました。先生はちょうどストーブをつけて机一杯に広がる文献の中でご研究中だったが，にこやかに迎えてくださり，大きなクッションの置いてあるソファをすすめてくださった。

研究室の壁一面の書架には雑誌・文献類が縦に横にぎっしりと，先生だけにわかる？並べ方で並んでいる。その大部分は年に2，3回外国にいらっしゃるたびに集められたとのこと。ご研究に使われる資料は殆ど研究室に置かれて，こちらでお仕事をなさる方が多いとおっしゃるが，ご自宅の方にも，防音に工夫された静かな書斎と，増える一方の資料を収める書庫がおありだそうだ。「書斎にいる時は仙人みたいなものですね」と微笑まれるが，ご家庭では書斎に籠られるよりご家族との団欒の方が多いとのこと。

読書についてうかがってみた。最近は忙しくて専門以外はあまり，とおっしゃる。学生時代は文学では太宰を好まれ，一方実存主義哲学に関する読書が多かったそうだ。「北大25年学部卒業ですけどね，学生会のリーダーとしての活動が多くてあまり本は読まなかったですね。でも鎌倉の兄が文学好きで大宅賞をもらったりしましてね（後藤杜三氏「わが久保田万太郎」で第5回大宅賞受賞），その影響でね僕も文学者との付合いは多いんですよ。文学には当時から関心がありましたね」とおっしゃる。

「趣味はね，音楽かなあ，それとたまに映画を見ますね」とおっしゃる先生，最近は高橋竹山の津軽三味線がお気に入りだそうだ。そう言えば机の傍に大きなカセットコーダーが置かれていた。お仕事では静けさが第1条件とおっしゃる先生だが，ご研究の合間には独り音楽の中で休養なさっているのかも知れない。

「今ね，僕の夢はね，日本版『星の王子様』を書きたいね。サン・テグジュペリの王子様は自分の星に復活したけれどね，僕のゴロベエはね，心は星に帰っても身体は砂漠に残って貧しい人々のために立ち上がるでしょうね。」にっこりとこうおっしゃったのが印象的だった。

Current Contents という世界中で利用されている大変便利な，そして風変りな雑誌があります。Chemical Sciences とか Life Sciences, また Space Electronic & Physical Sciences と多くの版があり，その各版の構成や名称も年によって変る場合が多いのです。これは各種雑誌の目次だけを集めて編集した情報誌で，研究者の間や，図書館などで重宝がられています。

国内では，**雑誌記事索引**という国立国会図書館編集のものがあり，大きく人文・社会と科学技術の2編に分けられ，論題・著者・雑誌名・巻号などが組まれ，不定期（現在は年4回）に発行されています。主題区分ごとに，論文を調べるためには，手間もかかりますが便利なものです。この**雑誌記事索引**には，5年・10年分をまとめた累積索引版や，累積索引版総合索引（著者名編，件名編）もあります。今年中には昭和30年から同49年までの20年分が揃う予定です。

類似のものが，若干ありますが，収録誌数では**雑誌記事索引**が最大のものです。

山本良三先生（食品化学）

小樽の生まれです。北大に入ったのが昭和22年，農学部で農芸化学の中の食品栄養学をやりました。まだ旧制で予科3年学部3年の生活でした。ひどい時代でしたねえ。それが楽しみだったのに実験の設備なんて何も無いんです。でも，予科はよかったですよ。友人たちとおしゃべりして……読書もしました。出版事情の悪い時代で，新刊本は手に入らないし，本を探すのはもっぱら古本屋でした。古本屋でも本が無いからずい分高かったです。国鉄で4日程除雪のアルバイトをやったんですが，そのお金を持って古本屋へ行ったらカラマーゾフだけで無くなったこともあります。だから，選んで読むんじゃなくって，そこにあるものを手当り次第って感じでした。ええ。毎日のように読んでましたよ。今読みかえしたらどうか分らないけれど，ゲーテの若きウェルテルに夢中になりましてネ，どこにって，あの愛だの恋だのってあんなにも真剣に考えられるものなのかって思いましたね。夢中って言えば，あの頃雑誌に太宰治がよく書いてましてネ，これにはわけもわからずにひっぱりこまれました。その内に自殺しましたけど，ショックでしたねえ。倉田百三，ヘッセ，ジイドなどもよく読みました。当時，あまり本を買えなかった反動でしょうか，今，文学全集を買ってます。もう本棚がいっぱいでネ，持って帰れないんですよ。ええ，定年になったら読むつもりなんですけど……。

専門のことですか。短大の家政科ですから，自分の専門分野の研究となると，やはり資料は足りません。北大や工業試験場などへ行きます。沢山は買ってませんけど，関係雑誌の目次には必らず眼を通してます。イヤア，カードをとったりなんかはしませんよ。最近はお金さえ出せば情報のサービスが受けられます。雑誌の目次や論文のコピーを送ってくれるんです。いざとなればそれを利用するんですねえ……。

趣味といってもねえ。何も無いですよ。ただ学生時代から，音楽は好きでした。やる方じゃなくて聞く方です。クラシックですね。ロマン派はどうも……より古いものとより新しいものです。バッハの小品なんか良いですね。クラシックを知らずに一生を過ごすのは大きな損失だと思いますよ。自分では，この頃あまり聞く余裕のないのが残念です……。

余　　録

館では，定期的に毎号継続して購入する雑誌の他に，特定の号のみを備える例があります。

特集号などがそうで宗教音楽序説**レコード芸術**，現代の福祉問題**ジュリスト**，福祉問題の焦点**ジュリスト**，中原中也**磁場**，聖書翻訳の新段階**翻訳の世界**，全国同人誌群像**流動**など，さまざまの分野の主題について，力の入った論文や調査記事が活用できます。

万有こよみ百科**歴史読本**，少年詩・童謡への招待**日本児童文学**，レンズ・ハンドブック**Photo Technic**，フィルム・ハンドブック**写真工業**のように別冊や臨時増刊のみの場合もあります。

国文学解釈と鑑賞のように，特集・別冊・臨時増刊と，年間を通じて多様な形で雑誌を出ししばらくすると，そのまま単行本として出版することがあります。言いかえると別冊や増刊の中には，単行本と較べても，内容に見劣りしないものが多いのでしょう。**文芸**の増刊として刊行されていた作家読本など便利な例です。

古事類苑と広文庫

「古事類苑」「広文庫」，どこかの公園や新しい文庫本ではありません。実は，両方とも本の名前なんです。遠い明治大正の世の産物ですから，今のあなたたちが知らなくても無理はありません。むつかしいことはやめます。一口に言えば，両方ともに江戸時代までの日本の様々な出来事や事柄を知る為の百科事典なのです。ただ，現代ふうの百科事典と違うところは，1つ1つの事項に解説を加えているのではなく，古いのでは古事記，源氏物語などから，江戸時代の随筆類まで，おびただしい書物の中から関係記事をぬき出して項目ごとにまとめた点にあります。原文の抜粋ですからもち論古語で，漢文体の文章も多く出てきますし，おまけに旧漢字旧仮名使い，中には変体仮名と呼ばれるめんどうなものまで使われていて，読むのは決して容易ではありません。ですが，世うつり人かわって，現在ではもう見ること聞くことのできない過去のことどもを，原資料，同時代の記録，

広文庫の本文例「はらあて」が主見出しで漢字が付されている。本文は本朝軍器考，貞丈雑記より該当部分を抄出，図をそえて理解を助けている。**古事類苑**では庭訓往来他で訓みを示し，軍用記等3書で説明と用例に充てている。

あるいはより古いより確実な文献によって確かめられるのは貴重なことではないでしょうか。図書館に沢山ある本の中でも，使えるという点では第1級の重要な資料です。一度，本を開いてみてください。森羅万象人事百般，実に様々な記事があります。国文学や日本史の基礎的な資料としては当然ですが，どの分野でも日本の江戸時代以前に属する調べものでしたら，まず頼るべき本です。「古事類苑」は事項をテーマごとに分類編成したもので，各部の名前はちょっとわかりにくいでしょうが，別に総目次と五十音順の索引が用意されているので大丈夫です。「広文庫」は現代の多くの百科事典のように項目の五十音順に編集されています。それぞれ項目や引用資料に特色がありますので，よく比べてみてください。どうです，ほんのちょっぴり背のびして，こんな本も使って勉強してみませんか。閲覧室北側，参考書架の百科事典のところであなたの利用を待っています。

学生の声

私の中の読書

文英4年　山　中　美智子

季節はずれの雪が舞った日に驚いていたのもつかの間，この頃の日差しはやがて来る輝く緑の時を予感させてくれるようになりました。入学したての頃は図書館の動かない空気におちつけなかったものでしたが，マシュウ・アーノルドの言葉をきっかけに今ではその雰囲気に浸りたくて足を運んでいます。その言葉は「価値ある生活を送るか否かはその日のうちに読書するかどうかによってきまる。いやもっとその日のうちに何を読むかによって決まる－教養と無秩序」というものでした。それ以来，講義のあき時間や昼休みなどを利用した読書によって充実した生活を送れるように努力してきました。私の読む本の種類は英米文学が中心ですが，他に美術全集，聖書類そして政治経済関係，教育関係，宗教関係などの雑誌です。それらによって私は未知のあらゆる方面を知ったはずでしたが最近一つの問題点に気がつきました。私は，本の話をしている時に「とてもよかった」とか「あまり好きじゃない」としか言っていないのです。つまり本の内容を具体的に説明することができないのです。相手が本当に知りたいのは本の雰囲気でなく中身そのものなのに……。私は自分が本を読むようになっても人に伝える水準まで深く読んでいないことを知りました。ただ読んで理解するのと，内容を正しく伝えるのとでは，後者の方が一層の注意力をはらって読書しなければなりません。ある先生も卒業論文を書くためには日頃から書くつもりで本を読みなさいとおっしゃいました。良い経験をより確実なものにするためにこれからは本の流れに流されずに冷静な解釈をしながら読書を続けようと思っています。

私の書物との関わり方

文国3年　楠　本　千　鶴

この様な文章を書いてみて，手元に活字となって戻って来た時には，いつもそうである様に，また一人で赤面する事になるのに違いないのだが，休みになると家には居づらい為，図書館を避難所風に利用しているうちに，それに対して自分自身，贖いをつけなければならなくなった様な形で駄文ながら執筆する次第になった。

館報に掲載されるという事から，器が決まると自然に内容物も定まってくるもので，先に示した様な題目を起点として書き記してみた。

私の読書量について考えてみると，全く自慢にならない事なのだが年齢の割合には極めて少ないと言っても過言ではないと思う。それには無論，私の頭の回転の鈍さが第一の原因となってはいるのだが，一行を読んで小半時も，でき得る限りの広い範囲に亘って派生的に考え或は書き，また他の体系的な文書へと飛び火したりしている事が多いからなのだと思われる。それは場合に応じては悪い読書法の典型ともなるのだが，生来の浮気な性格から発したものか，自然と，その様な作法に及び，そのまま読書法として習慣化されてしまった。それが自分の貧相な骨張った体に肉をとり付けていく様な実体的な方法に思えて今まで続けて来たし，また計画的な研究を進める一方で土台をより強固にできる長距離むけの方法に思えるので，これから先も方法の一つとして携えて行く事になると思う。

しかし，この種の方法について，いくら書き記してみても現実として，研究の実質の成果がそこから示されて来なければならない訳でもあり，その事にまで考えが及んだところで焦燥を余儀なくされる為，これで筆を置きたいと思う。

とはいえ，その裏腹に，こうした多くの試行と是正を無意味なままで終わらせる事を恥ともしない，知識層としてのふてぶてしい自己満足感が私の支えとなっている事も確かである。

NEWS

図書館長の移動

54年4月より，図書館長に家郷隆文教授が選任され，前館長伊藤政雄教授は大学総務部長に就任を致しました。

出納台取扱の変更

今年度の時間割が変更になりましたが，それに伴って，9時－16時（土曜14時）の出納台取扱い時間のうち，11時－12時を休止時間と致します。これは学生の昼休みをカバーするための繰上げであります。

土曜日の閉館時刻

土曜日の閉館時刻が18時から16時に変更になりました。これは利用の実情などを検討の上での変更であります。従って，試験期等の利用の多い時期には，時間を延長致します。

資料の移動について

閲覧室内の資料の配置が，相当大きな範囲で変更になりました。

1　新書（岩波・中公など）出納台前の書架
2　総記・キリスト教・聖書　南窓側の書架
3　一般開架図書　分類順に流れ配置（医学・栄養から英米文学まで）
4　雑誌（合冊製本分）　和・洋雑誌とも，雑誌名のＡＢＣ順に変更
5　参考図書　新しい書架を，閲覧室北側支柱の横に増設して，独・仏・西・伊その他諸国語関係の辞典等を配置しました。

案内図や書架見出しを参考にして，資料をご利用下さい。不明の場合は係にたづねて下さい。

禁帯出図書の一夜貸出

禁帯出図書の一夜貸出が，昨年に引続いて，年間を通じて試行されます。返却の遅れや資料の破損などは，他の利用者の利用を著しく妨げますから，定めをよく守って，一夜貸出の制度を効率的に利用して下さい。

貸出時間　16時――翌朝9時
（土曜日は14時より貸出）
対象資料　閲覧室内の参考図書
禁帯出指定の雑誌　その他

一夜貸出は閲覧室の受付で，その手続を致します。詳細は係にたづねて下さい。

設備増加について

図書館では，資料の増加にともなって，今年度も30連以上の書架を増設致します。閲覧室の目録カードケースも，引続いて増加する予定です。そのために年度の途中で，資料配置の移動またカード目録の組替えが行われます。あらかじめお知らせ致します。

増加雑誌紹介

最近閲覧室の備付になった雑誌の主なものは以下の通りです。

日本近代文学　学校保健研究　小児保健研究　厚生の指標　女子体育　日本古書通信　現代思想　文学研究　増加雑誌のうち，**文学研究**日本文学研究会は創刊号からのバックナンバーを同時に購入しました。また**現代思想**青土社は53年1月号よりの揃いとなります。

他に**読書・北海道**を，**北海道読書新聞**創刊準備号からの揃いで，学内からの寄贈を受けています。なお最近の寄贈誌では**聖火**が継続される見込みです。

藤女子大学 藤女子短期大学　図書館だより　第9号　1979. 5. 15. 発行
発行者　札幌市北区北16条西2丁目　藤女子大学図書館
印刷者　札幌市東区伏古8条2丁目　天使院印刷製本部